

国際交流部活動報告①「遊牧民のコミュニケーション」

NPO 法人北方アジア文化交流センター「しゃがぁ」理事長の西村幹也さんを講師に招き、上記のタイトルで講演していただきました。モンゴルでのフィールドワーク中に収めてきた映像や写真と共に、遊牧民のコミュニケーション（特に音楽やシャーマン）について学びました。現代日本社会との違いが理解でき、言語外（ノンバーバル）コミュニケーション・自然共生の重要性を再認識することができました。

【見せていただいたスライドより】



馬頭琴（馬は天空の動物）を引く遊牧民



西村さん持参の馬頭琴



精霊を体から出すシャーマン（宗教的職能者）



トランス状態からおまもりをつくるシャーマン

【参加生徒・教員からの感想】

☆今回の講義ではモンゴル遊牧民のコミュニケーションとして、音楽について様々なことを知ることができました。私達が考える音楽といえば、楽器を使用して自分が楽しむため、または皆と楽しむために演奏したり、歌を歌ったりすることが多いです。しかし、モンゴル遊牧民の方たちにとって音楽とは、神々に捧げるもの、悪いものを遠ざけ、良いものを近づけるために楽器を演奏したりするなど、自然界と人間が関わるためのものだということがわかりました。モンゴル人は、あるべきところはあるべきところに、自然の中に調和させ、決して奪うことなく、増長することもなく暮らすことが大切だという考えであり、それが文化として今も続いています。そのため音楽は、良い状態を継続していくために自然と人間を繋げるもの、切実な思いを伝えるためのものであると感じました。音楽の他にも様々なものがグローバル化する中で、伝統や文化を守り、自分たちの暮らしをつなぐものを大切にすることが重要だと感じました。異文化を知ることで、私が暮らしている状況を客観視できるため、様々な視点で見ることを大切にしていきたいです。

☆興味深い内容でした。聞いたことのない楽器などの演奏が見れたりして良い体験になったと思います。モンゴル人の当たり前と日本人の当たりの違いも知ることができました。

モンゴル人の動物を大切に考える方が自分は好きです。

遊牧民という限られたものの中で性活を行わないと行けない人たちは自然をたいせつにするという考え方に自然となることがわかりました。

☆今回の講習で学んだことは、一括りに音楽と言っても民族や国柄によってその存在が大きく異なるということです。今の日本で普及し、普段私達が好き好んで聞いている音楽と、モンゴルの伝統的な音楽では目的や価値観に多くの違いが存在するのだと感じました。今回学んだことを生かして、自分自身の国際理解の意識を成長させられたらと思います。

★言葉、音楽の捉え方や精霊の必然性など、あらゆる点で自分の世界とは違うものでした。特に音楽の意味合いが、自分の認識とはかけ離れていました。これからも、自分自身の狭い視野に留まらずに、見分を広めていきたいです。

★今回の講演で一番印象に残っていることは、「我々のコミュニケーション方法と全く違う形がある」ということと「彼らからすると我々のコミュニケーション方法が全く異なったように見えている」ということです。「見方・見方」が変わると、「考え方」が変わり、「行動」も変わってくる。そんなことをこれからも大事にしていきたいです。

【NPO 法人北方アジア文化交流センター「しゃがぁ」】HP (<https://www.shagaa.com/>) より



NPO法人北方アジア文化交流センターしゃがぁ

しゃがぁについて? お知らせ? 活動紹介? 活動予定? お問い合わせ 会員募集!? イベント申込み WebShop

モンゴルに行ってみませんか?

会報しゃがぁ イベント情報 遊牧文化講座 モンゴル服制作販売 馬頭琴販売 webshop しゃがぁ タイガ情報局 Photogallery
ツアー企画 コンサート情報 モンゴル語講座 遊牧民博物館 ドンブラ販売 くるまdeオスト カザフ情報局 podcast 遊牧民の囁